

なっきょん

2013 秋
AUTUMN



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

課外活動で 教師力を高める

羅針盤

附属学校園の取組

クローズアップ

モンゴル伝統スポーツからの視点

井上邦子准教授

ラボ・レター

技術教育講座 栽培学、園芸学

箕作和彦研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

第64回輝菫祭

Shining!!

～大きく示せ! 良い輝菫～

中 澤
奈良教育大



CONTENTS

2 特集 課外活動で教師力を高める

7 羅針盤 附属学校園の取組

10 クローズアップ モンゴル伝統スポーツからの視点～身体文化論が専門の井上邦子准教授～

13 ラボ・レター 技術教育講座 栽培学、園芸学 箕作和彦研究室

14 hito・あれ・これ 奈良市教育委員会に勤務する西口美佐子さん

15 なつきょん's CLUB企画 奈教のひみつ 第64回輝薨祭 Shining!! ～大きく示せ! 良い輝薨～

17 留学生レポート ハイデルベルク大学(ドイツ) 加藤 美文さんと華東師範大学(中国) 金 雄豪さん

19 キラリ☆奈教生 「県内大学生が創る奈良の未来事業」コンペに入賞した学生たち

20 ブカツ魂! 劇団キラキラ座

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! 大学生活で最近楽しかったことは



表紙のはなし

日々鍛錬

今回の表紙は、写真部の中屋 菜緒さん（教育学部 総合教育課程 文化財・書道芸術コース 3 年生：和歌山県立桐蔭高等学校出身）が撮影しました。

「奈良教育大学には、たくさんの課外活動を行う団体があります。」

その中でも、少ない人数ながら日々の練習に懸命に打ち込んでいる柔道部を取り上げました。自分の趣味・特技に必死に取り組んだ経験は、かけがえのないものであり、また、教育の仕事に携わる上でも大事な経験の一つになると思います。」



課外活動で教師力を高める

奈良教育大学では、多くの学生が授業以外の場で自主的にさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。学生自治会や大学祭実行委員会などの学生団体に関する取組、クラブやサークルでの取組、ボランティア活動など、一般的なものから教育大学ならではの取組まで多種多様です。

今回の特集では、それら「課外活動」を取り上げ、学生の取組などを紹介します。

対 談

課外活動が教師力を高める

きたたに いさお 北谷 勲 相談員（教員就職担当）

奈良学芸大学（現：奈良教育大学）卒業。県内の小学校・中学校で教壇に立ち、教頭・校長を歴任。現在、就職相談員として本学の教員志望学生の相談を担当している。

みやした としや 宮下 俊也 学長補佐（就職担当）

宮下：教員になるにあたり、学業以外の課外活動は大きく影響しますよね。これまで相談を受けられてきて、どのようにお感じですか。

北谷：教員採用試験において、たいてい「求める教員像」が示されています。例えば奈良県では、「使命感や情熱にあふれ、愛情をもって児童・生徒との信頼関係が築ける人」「豊かな人間性をもち、深い専門知識に裏付けられた実践的な指導ができる人」「奈良の伝統、文化を理解し、地域と社会的絆の中で子どもを育てられる人」が求められています。もちろん、大学生である以上知性を身に付けてもらわないといけませんが、それ以外に課外活動で養われるものが、「求める教員像」に反映されることが多いと感じています。

試験では、プレゼンテーションシートなどの記入を求められることが多く、例えば、「これまでの経験で一番大きな壁になったものは何か。それをどのように乗り越えたのか。またそれによってどのような力がつき、今後教員としてどのように生かせるのか」ということが聞かれることもあります。

宮下：学内を見ていると、本学の学生は課外活動を一生懸命にやっていると感じますが、その経験が、教員になったときにどう生きるのかという意識を少しでも持って取り組んでもらいたいと思っています。

北谷：そのとおりです。教育委員会は、経験したことの具体的内容だけでなく、その経験からどのような力がつき、今後どのように生かせる

のかというところまで要求しているわけです。

宮下：採用試験間近の学生が相談に来ることが多いと思いますが、まだあまり採用試験を意識していない1、2年生あたりの学生に、何かアドバイスはありますか。

北谷：まず課外活動をして欲しいです。できれば部長や副部長など全体をまとめるような役割、またマネージャーなど縁の下の力持ちのような役割を経験してもらうことが大事だと思います。そこでの経験からいろいろと身に付けることができれば、「求める教員像」に生きてきます。

宮下：きらりと光る経験ですね。

北谷：私は大学時代に陸上部で長距離に取り組んでいましたが、駅伝から大事なことを学びました。駅伝では、前の人からたすきを受け取り、次の人に渡します。たすきには前からの汗がついていて、絶対に次に渡さないといけなのです。そこにつながり・絆を感じました。しんどくて孤独だけれども、チームプレーなんです。教員として現場に行ったときに、いろいろと悩むことがあります。まずやはり自分で頑張らないといけません。自分で頑張るけれども、頑張りができなかったときにはやはりたすきです。同僚や管理職にたすきをつないで助けを求める、そして、その対応を吸収して次につなげる、それが一番大事です。

私の親友は、ずっとバレーボールをしていたのですが、彼は周りによく心配りができました。彼はアタッカーで、誰かがボールを上げてくれ

ないと打てません。当然周りに目が行くようになります。集団競技から得た経験ですね。

北谷：私が管理職をしていたときの話ですが、すごく優秀で熱心な教員のクラスで、学級崩壊が起きました。原因は何かと検証していくと、その先生は一生懸命だけれども目線が正面の限られた範囲にしか向いていなかったのです。問題を起こすような子は正面から外れたところにいますので、そのような子に気づくことが出来なかったのです。このようなことを防ぐためにも、広い視野を身に付けておくことが必要で、そのためにも課外活動は役に立ちます。

宮下：一般に一生懸命に努力するというと、狭い範囲で深くやる、脇目も振らずに頑張るといふようなところがありますが、教員の場合は違う訳ですね。

北谷：教育では、人間が人間を教えるのですから、人間が出来ていないと親も子どもも地域も皆反対を向いてしまうのは当たり前です。なかなか20歳過ぎの人間が、教育委員会が求めているようなことは出来ませんが、それにつながるような経験をやはり学生のときにしてもらいたいのです。それこそ人間形成は一生かかって行うものですが、そういう芽を持って臨めるかどうかでは違ってきます。

宮下：課外活動は、人間を成長させ、教師力を高めるための勉強なんですね。

就職相談
キャリアサロンでは、皆さんの就職相談に対応できるように、専門の相談員（教員就職対象・企業就職対象）を配置しています。相談日等詳細は、ホームページ（http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/employment/career_counseling/）をご覧ください。1回生からでも気軽に相談できる体制を整えています。



課外活動とは

「課外活動」という言葉を聞いて、皆さんはどのような活動を思い浮かべますか。大学祭に向けて一生懸命に企画や準備をする様子でしょうか。グラウンドや体育館で汗を流して練習に励むクラブ活動の様子でしょうか。それとも、さまざまな課題解決に向けて議論し、行動するボランティア活動の様子でしょうか。

一般的には、正課(≒授業)以外に大学の許可のもとに、学生が自主的に自らの責任において行っている文化的、社会的、体育的な諸活動を課外活動と呼んでいます。具体的には、本学の場合「学生団体」「クラブ・サークル」「学生企画活動支援事業」「ボランティア」の4つに大きく分けることができます。冒頭の対談で明らかなように、学生時代に課外活動を経験することは、特に教員を目指す学生たちにとって、人間形成の場として重要な意義を持っており、大学としてさまざまなサポートを行っています。

奈良教育大学の課外活動

学生団体	学生自治会、体育会、文化会、報道会、大学祭実行委員会
クラブ・サークル	体育系 34 (クラブ: 28、サークル: 6) 文化系 23 (クラブ: 11、サークル: 12)
学生企画活動支援事業	平成 25 年度: 7 事業採択
ボランティア	学校教育関係ボランティア 一般ボランティア (「ならやま」2013 年夏号参照)



学生団体、クラブ・サークル

http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

現在本学では、学生団体5団体、体育系34団体(クラブ:28、サークル6)、文化系23団体(クラブ:11、サークル:12)が登録されており、のべ約900名の学生が活動しています。各種大会で優秀な成績を収めたり、演奏会や展覧会を開催したりするなど、どの団体も活発に活動しています。これらの活躍は、随時大学ホームページや広報誌(「ならやま」、学生広報「天平雲」)などで紹介していますので、是非ご覧ください。

その中には、奈良教育大学らしく、地域と連携し、地域と共に活動している団体がいくつもあります。その一部を紹介します。



他大学との交流

課外活動を通じて、他大学の学生と交流する機会があります。同じ取組を行う他大学の学生と情報交換や抱える課題について議論したり、また普段は別々の大学で同じ目標に向かって競技や演奏などの練習に取り組む者同士が集まって日頃の成果を披露し合ったりしながら、交流を深めます。

【京阪奈三教育大学連携「学生主体セミナー」学生研修会】

京阪奈三教育大学連携事業の一環として、京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学の学生を対象に、学生が主体的に研修を行うことを目的に開催しており、これまでに体育会と大学祭実行委員会の学生が集まって交流を深めました。

【その他にも、定期的に交流を続ける機会があります】

- ・近畿地区国立大学体育大会
- ・全国教育系大学大会・近畿教育系大学大会
- ・阪神国公立大学吹奏楽連盟合同演奏会 など



学生自治会

5月24日に、校内及び学外における交通マナー向上を目的に、奈良警察署と連携し、自転車マナーアップキャンペーンを開催しました。啓発グッズの配布や自転車に関する交通安全クイズなどを行い、正確な交通規則をどれほど知っているかを確認し、また正しい知識を身に付ける良い機会となりました。



教育学部 学校教育教員養成課程 教育・発達基礎コース 3 回生

栗川 恵さん 和歌山県立橋本高等学校出身

今回は、放課後のみ実施したため、啓発できた学生は一部に限られていましたが、その中でも、交通規則を正確に知っている学生は案外少数であることが分かりました。また、警察の方々や協力して活動を行って、普段自分たちだけで行っている活動よりも、効果が得られたように感じました。今後も定期的にこのような活動を行い、教育大学の学生としての意識向上も図っていきたく考えています。さらにこれを足がかりとして、より綿密な連携を地域の方々や図りつつ、さまざまな活動を行っていきたく考えています。

学生の声

陸上競技部

一般財団法人奈良市総合財団から依頼を受け、7年前から月に2回、鴻ノ池陸上競技場で開催される少年少女陸上競技教室で小学生を指導しています。1回生3名と補助員・アドバイザーとして2回生1名の計4名で担当しています。



教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 社会科教育専修 1 回生

片山 健太さん 私立西大和学園高等学校出身

教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 英語教育専修 1 回生

塚本 真結さん 兵庫県立北摂三田高等学校出身

教育学部 学校教育教員養成課程 教育発達専攻 心理学専修 1 回生

桃井 佑輔さん 兵庫県立戸屋高等学校出身



左から片山さん、塚本さん、桃井さん

モチベーションが低く教室に集中できない子どももいるので、子どもたちに教室がつまらないと思わせてしまおうと話し始めてしまい、学級崩壊しながら指示がほとんど通らなくなることもあります。そうならないためには、子どもにつまらないと思わせられないような教室の計画を練り、教室の間は子どもたちのコミュニケーションや行動・態度など子どもたちの反応によって臨機応変に教室を進めないとはいけません。

そのようなことが求められる陸上教室での指導は、教師を目指す私たちにとってとてもやりがいがあり、刺激的な活動だと感じています。

学生の声

劇団キラキラ座

輝薨祭での公演以外に、以下のような活動に取り組んでいます。
●年に一度、県内の児童館から依頼を受けて、人形劇を行っています。
●昨年には、大学の依頼を受け、教材用のビデオを制作しました。
●時期が合えば、県の演劇祭にも参加しています。
(劇団キラキラ座の活動については、「プカッ魂」(P20) もご参照ください。)



教育学部 総合教育課程 文化財・書道芸術コース 4 回生

原田 瑞穂さん 熊本県立済々黴高等学校出身

普段、大学内で活動している私達にとって、地域での活動は、大きな刺激をもらえる場です。人形劇を行う際は、人形も全て手作りしているため、完成まで多くの作業が必要になりますが、それだけに、子供たちに喜んでもらった時の感動はひとしおです。

魔法少女衣装の作り方や自分への客観的な視点等、サークルの活動を通して得られるものは多くありますが、最大のものはやはり、全てをやり遂げた時の充実感ではないかと感じます。

学生の声

ユネスコクラブ

平成22年に創設された新しい団体で、ESD(持続発展教育)に強い人材を育てることを目的に、学外のさまざまな人々と連携しながら活動しています。ESD 子どもキャンプ、十津川村道普請、私の好きな奈良紹介、アングロン(インドネシアの伝統楽器)演奏、その他にもさまざまな活動をしています。日々、ESDの行動化の側面を楽しく追求しています。



教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 英語教育専修 2 回生

衆 綾香さん 京都府立南陽高等学校出身

このユネスコクラブでは、将来教師になる上でとても重要なものを得られると考えています。8月に行われた子どもキャンプでは、企画や子どもたちとの関わりを通し、先を読む力、子どもを中心としたプログラムの企画方法、先生方や子どもたち、学生とのコミュニケーションなどを磨くことができました。このどれもが私の将来の夢に直結しています。私は、普通に学生生活を過ごすだけではなかなか関わることがないこの活動を通して、たくさんの人々と出会い、学び、より一層教師になりたいと思うようになりました。

学生の声

TNP(東市・日本一・プロジェクト)

奈良市立東市小学校とその校区の地域の方々、奈良教育大学生とが世代を超えて協力し、東市小学校を日本一の小学校にしようとする異世代連携型学校教育支援プロジェクトです。「東市まるごと子ども宿舎(通学宿舎)や放課後子ども教室「まなびーや」などの企画運営に取り組んでおり、学生が学校や地域の方々や対等の立場で参画しています。



教育学部 学校教育教員養成課程 教育発達専攻 幼児教育専修 1 回生

中北 晶太さん 大阪府立三島高等学校出身

TNPという活動を通して、私は計画し実践するという機会をたくさん得ています。実際に行動する中で、学生の力だけでなく、学校との連携や地域のサポートによってより質の高い活動を行うことができており、つながりが大切だと学びました。この活動にはたくさん得るものがあり、本当に参加して良かったと思っています。特に、子どもの反応はいつも新鮮で、子どもから学ぶことがとても多い活動だと思います。

学生の声



教育学部 学校教育教員養成課程 身体・表現コース 4 回生

秋田 卓也さん

奈良県立郡山高等学校出身

セミナーに参加してみて、それぞれの大学での体育会の活動内容を聞くことができました。リーダーズミーティングは三大学とも行っていますが、内容には大きな違いがあり、今後、より充実した活動にするための参考になりました。他大学との交流ができる貴重な場であるため、これからも続けていく必要があると感じました。



体育会前会長

大学祭実行委員会委員長

教育学部 総合教育課程 科学情報コース 3 回生

中井 隆仁さん

和歌山県立向陽高等学校出身

大学祭の開催にあたって同じ点で悩んでいる大学があり、とても有意義なアドバイスを受けることができました。また、開催の方法が異なっているなど、三教育大学それぞれが自分たちの大学にあった手法を取り入れていることを知ることができました。このセミナーを通して、さらに奈良教育大学独自の色を濃くした大学祭を企画し、来場者の方に楽しんでいただるように頑張っていきたいと思いました。



学生企画活動支援事業

http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/planning.html

学生企画活動支援事業は、学生が自ら企画する事業のうち、優れたものに対して大学が経済的支援を行い、学生自身に実体験させることで、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資することを目的としたもので、平成16年度から実施しています。

審査は、企画書及びプレゼンテーション・質疑応答によって行われます。また、事業終了後には報告会が開催され、成果や反省点などを報告します。

プレゼンテーション

企画書の内容について説明します。審査委員は教職員や学生が務め、「応用・発展」「独自性」「協力・協同」「費用対効果」「プレゼン能力」を評価します。今後必要不可欠となるプレゼン能力を磨く良い機会にもなります。



報告会

採択された事業は、事業終了後に報告書の提出と報告会での実施報告が求められます。報告会は公開で行われ、平成24年度採択事業からは、テレビ会議システムを活用して京都教育大学と大阪教育大学にも中継しています。



平成24年度

に実施された事業の一部を紹介します。

● Let's リサイクル

大学祭実行委員会による事業で、大学祭の各模擬店において、リサイクル可能なトレーの使用を推進し、ゴミ削減と環境保全意識向上を目標に実施しました。

● 作ってハッピー☆造形ひろば

特殊な粘土で本物そっくりのお菓子を作るブースを中心に、さまざまな造形に触れられるブースを設置する、大学祭恒例のイベントです。

● 学生オペラ びっくり! ドッキリ!! 一度きり!!! ～あなたが来れば神々も歌いだす～

学生達の手で企画・運営し、オペラ公演を作り上げる恒例イベントです。今回は「天国と地獄」を上演、新たな取組を積極的に取り入れ、好評を博しています。



平成25年度

に採択された事業

■ Let's リサイクル

■ ウインターキャンプ

障害を持つ子どもたちとたくさん遊ぼう～参加者の輪を広げよう～

学生と障害を持つ子どもたちがスキーに出かけます。

■ 楽器ふれあいコンサート 幼稚園等で楽器を演奏し、触れ合ってもらいます。

■ 学生オペラ オカシな世界へようこそ～味惑のオペラを召し上がれ～

3/16 (日) に「ヘンゼルとグレーテル」を上演します。

■ 作ってハッピー☆造形ひろば 大学祭期間中の11/2 (土) と3 (日) に実施します。

■ なっちゃん食育塾 食や健康に関する活動を企画・運営します。

■ サイエンスラボ (理科実験教室) 科学実験により、児童の理科への興味を引き出します。

各事業の実施報告については、学生広報「天平雲」

(<http://www.nara-edu.ac.jp/guide/bulletin/tenpyou/>) や学生企画活動支援事業の紹介ウェブページなどで随時紹介していきます。



学校教育関係ボランティア

<http://www.nara-edu.ac.jp/OCPESS/>

本学では、教育現場が抱えるさまざまな課題に対し、課題探求心をもって取り組み、教育に携わる実践的な指導力を育成するため、関係教育委員会と連携し、教員への意識の醸成と教育現場の支援を目的とした学生ボランティア派遣に関する協定書等を締結しています。これにより、多くの学生が奈良市を中心に近隣の幼稚園や小中学校の現場に入って教職員の補助等を行っています。

協定締結先での活動内容例

●奈良市教育委員会（スクールサポーター）

奈良市内の幼稚園・小学校・中学校に、学生を「スクールサポーター」として派遣し、保育補助及び教科に関する補助、学校行事に関する指導補助、安全管理・確保に関する補助、クラブ活動・部活動補助等、教員の下でさまざまな教育活動の支援を行います。

〈平成 24 年度参加者数〉

市町村	学校区分	学年別参加者数				合計
		1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	
奈良市	幼稚園	3	3	9	14	29
	小学校	7	12	15	46	80
	中学校	3	7	4	13	27

●大和郡山市教育委員会（学習チューター）

不登校児童生徒の社会的自立を支援するために開設された、学科指導教室「ASU（あゆみ スクエア ユニバース）＝あす」に、学生を「学習チューター」として派遣し、教員の指導の下で各教科等における学習指導を補助します。

●京都府教育委員会（京都府山城教育局）

京都府山城地域の10市町（広域連合）教育委員会内の小・中学校に、ボランティアとして派遣し、教員の指導の下、学習や部活動の支援を行うことにより、学力の充実・向上等を図ります。

その他、京都市、茨木市、八尾市、柏原市、千早赤阪村、堺市、羽曳野市、東大阪市、交野市、神戸市等とも協定を締結しています。

学生の声



教育学部
学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース
4 回生
よしつ ふみ
吉津 芙美さん
大阪教育大学附属
天王寺高等学校出身

私は現在、小学校へボランティアに入り、授業補助や下校指導などの支援をさせていただいています。ボランティアの魅力は、生身の子どもたちに関わっていただけることです。学校現場では1日がめまぐるしく過ぎていきます。そんな中、子どもたちの「やっと分かったわ」「私、次の体育は頑張るから見てて」という成長している姿を間近に感じた時、言いようのないうれしさを感じます。私自身悩むことも多いですが、子どもたちの笑顔を感じ、また学校の先生方からも多くを学ばせていただき、より一層教職への思いが高まりました。ボランティアを通して、とても貴重な経験をさせていただいていると思います。

スクールサポート研修・認証制度

教育現場への学生の派遣にあたっては、奈良市教育委員会との連携の下「スクールサポート研修・認証制度」を実施し、研修等の機会を設けることで学生のサポートを行っています。

本制度への参加を希望する学生は、4～5月に「スクールサポーター2級研修会」を受講し、学校教育支援者としての基本的な倫理や求められる役割などについて学びます。その後、教育委員会を通じて各学校園へ配属されます。10～11月に再び研修会（1級）が開かれ、参加学生は6月以降に経験した自身の教育実践を他の学生と共に省察的に分析する機会を得ます。

教員の声

教育実践開発研究センター 地域教育支援開発部門
特任講師
なていし まいこ

立石 麻衣子

本制度を利用する学生によっては、教育実習に先行して教育現場に入ることになります。初めての学校での教育支援活動に、不安を感じるかもしれませんね。でも大丈夫。本研修を受講した学生の感想にある通り、配属前に行われる2級研修会によって必要な学びを得ることができます。「この講義では、実際にスクールサポーターとして支援していく上で、初めどうしていけばいいのか、こういった心構えで行けばいいのかということを教えていただけて、とても勉強になった。支援中に困ったときは、この講義でのメモを確認しようと思った。（平成 24 年度受講学生の感想）」

学生時代に本制度を活用していたという現職教員を対象にしたアンケートからは、スクールサポーターの経験によって、いろいろな性格の子どもたちを知ることができ子どもへの理解が深まった、先生方の指導とその指導を受けた子どもたちの反応を見て指導方法を学ぶことができたなど、本制度への参加が後の教職に生かされているとの評価をいただいています。



※今年度のスクールサポーター1級研修会では、本学池島徳大教授による、いじめ対応をワークショップ形式で学ぶ講座を予定しています。（HP 参照）





附属学校園の取組

本学の各附属学校園では、それぞれの特色を生かしながら大学と連携し、さまざまな取組を行っています。

今回は、その中からそれぞれ1つずつ、取組を紹介します。

<http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html>

大学生と一緒に遊んだ「どろんこパーティー」

附属幼稚園 教諭 ^{は せ が わ}長谷川 かおり

附属幼稚園では、平成22年度から本学美術教育講座の西野慎二教授と連携し、7月の初めに年長児がどろんこで遊ぶ体験をしています。他のものでは味わえないぬるぬるドロドロの感触を楽しみ、汚れを気にせずダイナミックに遊ぶことで、心も体も解放することができる貴重な体験ととらえています。

3.5m×7mの砂場に、大きなシートを敷いて約1トンの土粘土と水を入れ、柔らかくしたらどろんこプールの完成です。子どもたちはその中に入り、全身どろんこになって遊びます。

7月10日、今年もその「どろんこパーティーの日」がやってきました。今回は11名の本学学生が参加してくれました。学生には、まずどろんこプールに入り、粘土の固まりを崩して柔らかくしてもらいました。すると、着替えが終わった子どもたちが次々とその周りに集まってきて、学生に話しかけたり、どろんこを触ったりして、「どろんこパーティー」への期待が高まっていきます。そしていよいよ「せーのーで」で園児が一斉にどろんこプールに入り、まずは足でどろんこの感触を楽しみました。そのうちにお尻をついたり、寝転がったりと大胆に遊ぶ子どもがどんどん増えていきました。学生の手や足や顔にもどろんこをつけたり、背中に粘土の塊を乗せたり、…と容赦なく関わっていきます。いつの間にか、学生も子どもたちに負けないうくらい夢中になって遊んでいました。汚れることが苦手な子どもたちも学生と遊んでいるうちに少しずつどろんこになり、「どろんこパーティー」を楽しむことができました。

一緒になって遊んでくれる人や、楽しさや面白さを共感してくれる人が側にいることで、子どもたちはより一層意欲的に活動することができ、体験が豊かに膨らみます。

私たち保育者は、いつもそのことを心がけて子どもたちと関わっていますが、今回は学生の若いエネルギーと“子ども大好き”の気持ちが、「どろんこパーティー」をさらに楽しいものにしてくれたと思っています。



「背中にべったん!」



「ねーねー、かめさんになってよ!」背中に粘土の甲羅をのせるよ」



「どろんこプールはきもちいいね」



「次はなににする?」



「かっこのいいのができてね」



「わー。どろんこ怪獣みたい」
「もっと背中にとげとげをつけるよ」



「どろんこばーてーいー楽しかったよ!」



子どもの学びのあり方の追究

附属小学校 副校長 さくらもと とよみ 櫻本 豊己

附属小学校は、子どもたち一人ひとりの人間的な自立を目指して、日々の教育活動を進めています。人間的な自立のためには、何を学ばせることが必要なのかという視点と、子どもの人間的な自立を支えるなかまの存在とあり様が大切だと考えています。今日の子どもたちの置かれている背景を考えながら、どのような授業づくりを進めていくのかを長く追究しています。

子どもたちにとって意味のある授業づくりにおいて、私たちは、まず教材の価値を大切にしています。価値ある教材は、子どもの発達・認識の筋道や教科の持つ役割や系統性を踏まえたものです。子どもたちが学びの主人公になる上で、教材の価値の視点は欠かせません。

また、学びが単に個人的なものではなく、広く人々の幸福と社会の進歩に寄与するものである点から考えると、ある知識を獲得していく過程においてもなかまとの考えの交流が欠かせません。

私たちは、ほぼ毎年、教育研究会を開き、授業を公開してきていますが、今年度は11月16日(土)に、「教材の価値となかまとの学び合い」をテーマにして開催します(詳しくは、附属小学校に設置又はホームページに掲載している案内状をご覧ください)。今年度の研究会では、書画カメラ・プロジェクタ・タブレットパソコンなどのICT教育機器を使った授業も公開する予定です。本学の学生・院生の参加を歓迎します。

また、「地域と連携した『学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける』教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト」の事業の一つとして、教育研究会に先立って行われる予定の校内授業研究会(10月～11月)にも、本学学生・院生に、授業と授業検討会への参加を呼びかけています。具体的な教材で、教材と子どもに視点を置きながら、授業づくりの実際や授業の評価等について、小学校教員の論議を通して、また論議に参加して学ぶことができます。



校内授業研究会の体育の公開授業。学生も参加できます。



ベースボール型運動「すすみっこベース」で作戦を相談する子どもたち。



一人一台のタブレットを使いながらの6年歴史の学習。



タブレットで子どもたちの予想を先生機に送った結果をもとに話し合いを進めている様子。



教職大学院 (たかばたけ・ほんがく倶楽部*)と 附属中学校 (特別支援学級)との協働プロジェクト

*本を楽しんだり、本に学んだりする子どもに育ってほしいとの願いから生まれた、教職大学院生による子どものための読書推進クラブ。

附属中学校 教諭 ^{おお たに よし こ} 大谷 佳子

昨年度より始まった『学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける』教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクトにおいて、附属中学校では、附属学校園の「学び合い・育ち合い」機能強化のための研究開発として、ESDを主題とする研究活動や韓国公州大学校附設中学校との交流、中庭をフィールドとする環境学習などを展開してきました。

その一つとして、特別支援学級では、子どもたちへの絵本の読み聞かせに取り組んでいます。教職大学院の学生と特別支援学級の教員が、アニメーション*という手法を活用しながら、子どもたちの読書活動につながる興味や関心を引き出し高めることを目指して始めました。

この事業を始めるにあたって、特別支援学級の生徒と接した経験の少ないスタッフと一緒に綿密に企画をすること、とりわけ子どもたちの様子やニーズを丁寧に把握することが重要であると痛感しました。

このような「国語の授業でも遊びでもない」新しい活動に、学生スタッフと協働して取り組むこと、また、その事前打ち合わせの内容や方法自体も、私たち教員にとって新しい学びです。子どもたちの前に立つ学生スタッフ自身が「前回よりもスムーズに進められた」「前回の反省から今回に向けて改善したところがうまくいった」と手応えを感じていることを共感的に総括できる時間は楽しいものです。

取組も2年目に入り、「季節感や学校行事に関連した絵本の選択」「導入の方法」「絵本の提示の仕方」「教具の準備」「子どもが主体的に参加できる工夫」など、準備について少しずつ深まっています。また、子どもたちの感想などをどのようにしてつかみ、どのようにフィードバックするのも試し始めました。

元気なお兄さんお姉さんスタッフが来てくれて、着ぐるみのお兄さんが登場したり、クイズがあったり、最後には一人ずつにお持ち帰りのグッズがあったりする楽しい取組、『たかばたけ・ほんがく倶楽部』。子どもたちは次回を心待ちにしています。

※読書が好きになるよう導くために元気づけるという意味で、ゲームや遊びを通して読書に親しみ、楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を伸ばす国際的な読書指導法のこと。



子どもたちは身を乗り出して聞いています。友だちとも体を寄せ、授業にはない雰囲気です。



少しとまどいながらも、絵本に合わせて体を動かしているうちに盛り上がってきました。



使用した絵本は、校舎内の「図書コーナー」に展示されていて、いつでも振り返って読むことができます。



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

草原の身体に寄り添う ～モンゴル伝統スポーツからの視点～



夏の草原とゲル

なぜモンゴルのスポーツ？

「何を研究しているのですか？」と聞かれ、モンゴルの伝統スポーツの研究をしていますと答えると、一瞬「？」という反応が返ることがよくあります。特に学生や専門外の方などからは「なぜ、モンゴル？」

と更に問い直されます。

そもそも興味を持ったことに、人を納得させるほどの理由などないかもしれませんが、きっかけならあります。私の場合、大学院修士課程の時に、一冊の本を読んだことが始まりでした。当時私は、本学の大学院に籍を置いていましたが、

その時ふと手にした岩波新書の『モンゴルに暮らす』（一ノ瀬恵著）を読んだことが、モンゴルと出会うきっかけになりました。一人の日本人女性が中国モンゴル自治区に留学し、そのまま地元の男性と結婚して送る遊牧生活を、感じたままに記した本で、文章だけでなくその写真からも異文化のきらめきを感じ取りました。その後、司馬遼太郎の『草原の記』や椎名誠『草の海』、小長谷有紀『モンゴル風物詩』などモンゴルに関する本を次々に読み進めるうち、どうしても一度彼の地に実際に降り立ち、直に空気が吸いたくて仕方がないようになりました。

当時（1990年代）のモンゴル国は、社会主義から民主化に移行しようとしていた時期にあたり、ようやく一般の旅行者も受け入れようとしていた時期でしたので、幸い私も院生の間にモンゴル国を旅行することができました。そこで単純に言ってしまえばカルチャーショックを受けたのです。遊牧民である彼らは、見渡す限り（地平線の長いこと！）の草原に小さな丸いテ



井上研究室(左から、平口 俊貴(ひらぐち としき)さん、澤田 大登(さわだ ひろと)さん、井上准教授、宮崎 健太(みやざき けんた)さん、中山 拓也(なかやま たくや)さん。4人とも教育学部 学校教育教員養成課程 身体・表現コース 3回生)

プロフィール

保健体育講座

いのうえくにこ
准教授 井上 邦子

専門は身体文化論

日本体育大学大学院博士後期課程修了
博士(体育科学)

主要著書

単著 『モンゴル国の伝統スポーツ——相撲、競馬、弓射』、
叢文社、2005年。

共著

・『教養としてのスポーツ人類学』、pp. 187-191、
大修館書店、2004年。

・『スポーツ学の冒険——スポーツを読み解く「知」とは』、
pp. 6-15、黎明書房、2009年。

・『現代思想』11月号、pp. 173-183、青土社、2010年。

・『スポーツロジイ』第2号、pp. 70-87、みやび出版、2013年
など。



『モンゴル国の伝統スポーツ——相撲、競馬、弓射』
(叢文社)





モンゴル相撲

ント（ゲルと呼びます）と最小限の家財道具だけを持ち、家畜と共に生きています。モノに囲まれて暮らしている私にとって、彼らは何も持たないように見えましたが、しかしすべてを持っているようにも思えました。

モンゴルの人々は、顔かたちはもちろん、言語学的にも地域的にも私たちと近い人々です。にもかかわらず、遊牧を生業としてきたからでしょう、暮らしに根ざす価値観や世界観が私たちと異なるように感じます。そうであるならば、彼らの「スポーツ」や「身体」に対する考え方は私たちとどこが違うのだろうか？——スポーツ・体育を専門とする私は、彼らのスポーツに関する思考を明らかにしたいと考えるようになりました。

人にとってスポーツとは何か？ 求めるべきスポーツ・体育の姿とは？——例えばこうした本質的な問いを考えると、自らの価値観を出ることなく想定内からのアプローチでは、その実質に迫ることは難しいでしょう。私たちが当たり前だと思ってい

る考えを、改めて考え直すように促してくれる「異なる視点」が必要なのです。モンゴルのように、我々と異なる価値観で生きる人々がスポーツに関して大切にしているもの、信じているものを明らかにし、そこからもう一度、私たちにとってのスポーツや体育を考え直すことが大切でしょう。

その後、私は、現地調査の場所をモンゴル国と定めて定期的にフィールドワークに赴き、時にはモンゴル相撲の力士と行動を共にし、時には競馬の馬を育てる遊牧民の家に寝泊まりし、牧畜作業を手伝いながら馬の調教方法を教えてもらって…ということをしているうちに現在に至っています。

なぜ白鵬は強い？

「なぜ白鵬や日馬富士は強いのか？」という質問をしばしば受けることがあります。その答えは一つではないでしょう。しかし私は、この類の質問をモンゴルの伝統スポーツの身体観の問題と考え、こう答えます。彼らの身体が「劈^{ひら}かれている（解放さ

れている）」からかもしれない、と。

伝統的なモンゴル相撲の世界では、力士がプロでないこともあり、毎日コツコツと稽古を積むという習慣はありません。稽古は試合の2週間くらい前になってからというのが一般的です。その稽古も、草原の風通しの良い場所に仲間たちと移動し、そこで自然に浸りながらゆっくり身体を休めるという感じで、試合直前合宿の厳しい稽古を想像していると、そのゆったりとした時間の過ごし方に驚くほどです。

しかし、その代わりの準備といっは何なのですが、力士は相撲をとる際、鳥が羽ばたくような舞をすることや、詩人から力士を褒め称える即興詩を吟じてもらうことを非常に重要視します。詩人が即興詩を吟じる中で力士が舞を披露することで自然から力を得て、相撲感覚を研ぎ澄ますというのです。モンゴルでは身体を「所有」（「私」が自分の「身体」を持ち物のごとく意のままに扱う）し、筋力や瞬発力を鍛え、能力の数値を上げるという発想はないようです。それよりも、身体を劈いて〈外〉から





鳥のはばたきの舞

力を呼び込むことを優先します。彼らにとって稽古とは、すべてを受け入れ、それを力にできる身体自由度と感度を研ぎ澄ますことなのかもしれません。白鵬や日馬富士は、しっかりと稽古も積みつつこのような伝統的身体観も合わせ持つことが、強さの秘密の一端かもしれないと思います。

伝統スポーツが 教えてくれること

自分の身体能力の数値を上げ、「理想の身体」に向けて鍛え上げることを疑ってこなかった私たちには、こうした身体観は少々理解しにくい概念かもしれません。しかし自分の身体を「理想の身体」に近づけようとすることは、心が肉体に「理想の身体たれ!」と命令し、心が身体を所有している状態といえるでしょう。まるで鏡に映る自分の身体をデザインしているようです。しかしそれでは、自らの「理想とする想定内」でしか変化は望めません。もちろん身体を鍛え上げる努力を否定するつも

りはありませんが、客観的に身体をデザインすることのみでは、身体の内様を根本からひっくり返すような、未知の身体潜在能力を大きく開花させようとするときには、むしろ足枷になるかもしれません。そうした意味で、モンゴル相撲は身体の所有の概念をやすやすと超えたところにあるといえるでしょう。そしてそれが、スポーツの感動を生む本質へとつながっていくと考えます。スポーツは鏡に映る身体がするのではなく、ここにある身体がするものなのですから…。

「相撲の成熟は身体を劈き自由度と感度を高めることである」という考え方は、モンゴルの伝統スポーツが大切に、信じてきたことだろうと思います。モンゴル国は現在、グローバリゼーションの風に大きく揺さぶられ、まさに激動の時代を生きています。これからモンゴルの伝統スポーツの身体観はどのように変化するのでしょうか？ これからも、できるだけ彼らの心性に寄り添った形で、モンゴル伝統スポーツが「大切にしているもの」「信じていること」の行



馬乳酒をつくる子ども

方を注意深く見ていくことを続けていきたいと思っています。そして、そこから私たちが求めるべきスポーツ・体育の姿も照らし出していただければと考えます。





ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻
技術教育専修
(改組前: 学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 技術教育専修)

栽培学、園芸学

み つ くり か ず ひ こ
箕作 和彦研究室



教育学部 学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生

From

ほ そ だ か ず と も
細田 一智さん

京都府立京都すばる高等学校出身

箕作研究室紹介

箕作研究室は、学習指導要領の改訂により生物育成に関する技術教育が必須になったため、新しく設置された研究室です。現在、学生は2名所属しており、研究室には植物を育てるための照明や温度管理、実験器具を殺菌したり無菌操作したりするための設備があります。これらの設備を用いて、植物への照明時間や温度などの栽培環境をコントロールしたり、挿し木や不定芽形成などを活用した栽培教育に有効な教材の研究開発を行っています。また、技術科の教員が実際に活用でき、生徒の学習効果を高められるような教材についても検討しています。

研究室のゼミでは、植物育成に関する論文を調べて発表したり、実験の進み具合や結果をデータ化してまとめたりしています。これらの活動から自分の研究だけでなく、他の学生の研究についても学ぶことができます。

ここが魅力!! 箕作研究室

箕作研究室では、植物を育てるだけではなく、植物栽培から植物の特性、生命力、力強さなどを学ぶことができます。例えば、1番上の芽を摘むと他の芽が成長することや茎を切ると切断面から新たに根が形成されることなど、植物が持つ不思議について知ることができます。栽培の研究に関する知識が少なくても、実際にやってみて分かることも多く、また新しい発見もできるので、とても楽しく実験に取り組むことができます。また、箕作先生は学生の研究指導に熱心で、専門的な知識が少なくても実験ができるように適宜アドバイスをしてくれます。さらに、実験の中で生まれた疑問を確認するために、先生と相談しながら新たに実験を増やすこともできます。

私たちの日常と研究

植物栽培の研究は、大学内技術棟の実験室と自然環境教育センター奈良実習園の2カ所で行っています。私たちの実験は、実験材料の植物を栽培しながら進めるため、すぐに結果が出るわけではありません。そのため、時間をゆっくりかけて植物の反応を見ながら行うことができます。また研究の合間には、クラブ活動や学童指導員の活動など個々の時間も大切にすることができます。

私たちは、取り組んでいる研究を通して、教材の開発に多くの経験と知識、データ等が必要になることを学んでいます。実験では、予想通りの結果を得るのが難しいこともありますが、日ごろから植物の成長や反応を観察し、研究に生かせるよう努力しています。

卒業論文のテーマ

● トマトの栽培培地および肥料の違いが不定芽形成に及ぼす影響

Student's Voice

トマトは、茎を切断することにより、芽を形成する現象を容易に観察できます。この現象を活用した教材を開発するため、芽の形成に肥料や土の種類などが与える影響について実験しています。また、開発した教材がさまざまな栽培・教育環境で効果的に利用できるように、工夫しながら研究しています。



教育学部
学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生

ほ そ だ か ず と も
細田 一智さん
京都府立京都すばる高等学校出身

● ジャガイモの塊茎形成を観察する教材開発

Student's Voice

一般的にジャガイモを栽培するためには、畑が必要だと考えられています。本実験では、畑を利用せずに室内の省スペースでのジャガイモ栽培の可能性について検討しています。また、栽培の環境条件を変えることで、塊茎が形成される過程を観察できるような教材を開発しています。



教育学部
学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生

は た け や ま ま さ き
畠山 奨規さん
大阪府立高津高等学校出身





ESD日本教員交流プログラム奈良市訪問

「世界遺産学習を多くの人々に伝えたい」

現在私は、奈良市教育委員会事務局で世界遺産学習の担当をしています。世界遺産学習とは、平成10年に「古都奈良の文化財」が世界遺産に登録されたことをきっかけに、世界遺産を守り伝え、未来へ受け継ぐ子どもを育てるために、奈良市で始めた学習です。

平成19年には、当時奈良教育大学の教授であった田淵五十生先生の指導のもと、世界遺産を知るだけでなく、それを守り受け継ぐための態度を育てたり、世界遺産を通して環境、国際理解、人権、平和など現代的な諸課題について学習したりするESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を世界遺産学習に取り入れました。私は、当時小学校の一教員として、新しい副読本『奈良大好き世界遺産学習』の編集委員を担当し、十数年ぶりに田淵先生と再会しました。実は、田淵先生は私が大学1・2年生のときの担当教官でした。不思議な縁です。

その後、教育委員会に入り現在に至りますが、今も世界遺産学習に関して多くの奈良教育大学の先生にお世話になっています。卒業してから二十数年、奈良教育大学とこんなに密接に関わることになるとは思いもありませんでした。本当に不思議な縁です。

また、職場でも奈良教育大学出身者が多く、在学中には知らなかった人や在学期間が異なる人とも、当時の大学の先生やクラブのことなどで話が弾むこともあります。

このように、奈良教育大学で学んだおかげで多くの良い縁に恵まれ、幸せに過ごしてきたと感じています。

しかし、東日本大震災以降、そんな自分が人々の幸せのためにできることは何かと考えています。

微力であっても、約20年間教育に携わってきた私ができることは、やはり教育によって人々を幸せにすることではないだろうか。現在担当している世界遺産学習によって、自分の住む地域の良さを知り、好きになり、誇りに思う。そうして、少しでも今より幸せを感じる子どもたちを増やしたい。大人たちを増やしたい。この世界遺産学習を多くの人々に伝えたい。

現実の教育の現場においては、いろいろな課題がありますが、そんな夢を抱きながら、周りの人々に感謝しつつ、日々の仕事に励んでいます。

奈良市教育委員会事務局
学校教育部学校教育課
教育推進係
指導主事



にしきうち みさこ
西口 美佐子さん

(教育学部 小学校教員養成課程 社会専攻 平成2年3月卒業)



家庭科教材研究のグループ研究 インスタントラーメンについて



剣道部 大会出場記念に



西洋史研究室 島田先生を中心に卒業写真



奈良市教職員研修





第64回 き ぼう さい 輝薨祭

テーマ **Shining!!**
~大きく示せ! 良い輝薨~

11月2日(土)
~
11月4日(月)



輝薨祭とは

1950(昭和25)年に、奈良学芸大学(現:奈良教育大学)学生自治会によって第1回目が開催され、今回で64回目を迎える歴史ある大学祭です。
国際三輪車レースや子どもフェスティバルなど、教育大学らしく子ども達も楽しむことができる企画がたくさん行われます。

名前の由来

大学祭に名称をつけるにあたり、学歌のなかに「輝く薨・・・」という歌詞があるので、「輝薨祭(きぼうさい)」にしてはどうかという提案がありました。これは、学歌からの命名であり奈良らしい名称であり、また「輝薨」の読み方である「きぼう」が「希望」に通じることから、本学大学祭の名称に決定しました。(昭和50年、第26代委員会)

大学祭実行委員会委員長メッセージ

私たち第64代大学祭実行委員会は、63年間にわたって多くの先輩方がコツコツと積み上げてこられた歴史を引き継いでいくべく、組織されました。この1年間、さまざまな工夫を凝らした模擬店や子どもから大人まで楽しめる盛りだくさんのイベントを企画し、さらには、そこに来場者の皆様の活気をプラスし、今年だけの特色ある輝薨祭を作り上げようと活動して参りました。

今年度のテーマ「Shining!!~大きく示せ! 良い輝薨~」にもあるように、私たちの大学祭での活気や笑顔を、輝薨祭に関わるすべての方々へ届け、明るい希望に満ちた光で照らしていけるようにしていきたいと思います。



第64代大学祭実行委員会委員長
教育学部 総合教育課程
科学情報コース 3回生
なかい たかひと
中井 隆仁さん
和歌山県立向陽高等学校出身





教育学部 学校教育教員養成課程
教育発達専攻 教育学専修 2回生
ありい ゆか
有井 佑華さん
私立好文学園女子高等学校出身

リサイクル

各模擬店に、フィルムをはがすことで汚れを簡単に落とし、リサイクルすることができるトレーの使用を推進しています。そのトレーを来場者の皆さんから回収することにより、ゴミを削減し環境保全意識を高めることが目標です。

学生企画活動支援事業に採択され、大学から支援を受けています。

リサイクル方法はとても簡単です。子ども達や将来教壇に立つ学生たちに、こういう方法でリサイクルができるということを、知識や経験として知ってもらいたいです。



ボクも
参加したい!!



仮装審査会

参加団体が工夫を凝らした衣装に身を包み、舞台上でさまざまなパフォーマンスを披露します。学生自らの手で創り上げる輝麓祭の名物的イベントです。

奈良教育大学の学生が盛り上がる輝麓祭初日のイベントです。毎年アイデアあふれる発表や見る人の笑いを誘うパフォーマンスが見ものです。ぜひご覧ください！



教育学部 学校教育教員養成課程
教育発達専攻 教育学専修 2回生
ふじた くにてつ
藤田 国哲さん
奈良県立高田高等学校出身

子どもフェスティバル

毎年恒例の子どもフェスティバル。
今年のテーマは「海賊」です！
子どもたちが楽しめる玉入れや
モグラ叩き等のブースや劇を企画します!!

年少児から小学校高学年のお子様まで、幅広く楽しめるイベントとなっています。ぜひ、お越しください!!



家族みんなで
遊べるねー♪



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 社会科教育専修 2回生
まつした てつ
松下 哲さん
長野県飯田高等学校出身

お化け屋敷

小さな子どもから大学生まで参加出来る大人気企画です。今年は神社に札を入れながらゴールを目指して進みます。ゴールにたどり着くまでにさまざまなお化けがあらゆるところから皆様を驚かせます。

今年も皆さんに楽しんでいただけるよう頑張ります。輝麓祭の最終日と言えば、お化け屋敷！11月4日、307教室・308教室で多くの方のご参加をお待ちしております。



教育学部 学校教育教員養成課程
教科教育専攻 社会科教育専修 2回生
いなさか ちか
稲阪 千佳さん
大阪府立夕陽丘高等学校出身



留学生 レポート



- ① ロックヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ プカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

Interviewee



教育学部 学校教育教員養成課程
言語・社会コース 4回生
三重県立津高等学校出身

かとう みふみ
加藤 美文さん

ハイデルベルク大学 (ドイツ) (留学期間 2012.9 ~ 2013.8)



授業の様子



みんなで巻きずしを作ったところです

⊕ 留学をしようと思ったきっかけは。

国際交流室で留学生と仲良くなり、いろいろな話を聞か
ず私でも留学したいと感じたことです。

⊕ 留学する前にどれくらい語学の勉強を していましたか。

ドイツ語検定の3級取得を目指して勉強していました。本
格的に勉強を始めたのは、留学の半年前と少し遅かったかも
しれません。

⊕ 留学先ではどのような1日を過ごしていましたか。

午前中はドイツ語の授業、午後は専門科目の授業に出席し
たり、スポーツをしたりしていました。友達と一緒に料理をす
ることも多かったです。

⊕ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

夏になると素足で歩いている人がいたり、日焼けするため
に長時間河原で日光浴する人が多かったり、休み時間に教室
で果物を皮をむかずに丸かじりする人がいたり、なにかと自
然体?な人の様子に驚きました。

⊕ 留学中一番うれしかったこと、 逆に大変だったことは何ですか。

一番うれしかったことは、世界中の友達ができ、面白い話
が聞けたことです。大変だったことは、実ははじめに、外国人
(ドイツ人) がちょっと怖いと感じていたことです。

⊕ 留学体験をどのように 生かしていきたいと思えますか。

日本に住む、外国にルーツを持つ子どもの支援をしたり、
教師になったら授業で国際理解に関することにも少し触れ
たいと思います。いつか海外の日本人学校でも働けたら
いいなと思います。

⊕ 在学生、高校生の 皆さんに一言。

社会人になったら、お金は
あっても時間や仕事を中断
して何かするという決断は
なかなか難しいと思います。
ぜひ学生の間に、留学な
どさまざまなことに挑戦し
てください。



ハロウィンのスリラーダンス





ハイデルベルク大学 (ドイツ)



華東師範大学 (中国)

今回は、本学の国際交流協定校であるハイデルベルク大学 (平成5年4月1日協定締結) に留学していた加藤美文さんと、華東師範大学 (平成21年7月27日協定締結) から本学に留学していた金雄豪さんに話を聞きました。

ハイデルベルク大学は、ドイツ最古の歴史を

持つ大きな大学で、古い建物や城、博物館、劇場もある文化的、歴史的な町 (「大学生の町」) とも言われる) にあります。また華東師範大学は、国家教育部直属の全国重点師範大学で、国際的大都市上海にあります。ヨーロッパ風と伝統中国風の建物が交じり合った美しいキャンパスです。



猛暑の京都嵐山で人力車に乗って優越感！

Interviewee



華東師範大学 (中国)

きむ ゆうご
金 雄豪 さん

日本 / 奈良教育大学 (留学期間 2012.10 ~ 2013.9)



鳥取砂丘への旅行

✚ 留学しようと思ったきっかけは。

自分の専門が日本語だから、日本語の能力を伸ばすために、また日本の文化を体験するために留学することにしました。

✚ 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

華東師範大学で日本語を2年ぐらい勉強しましたが、最初日本に来て日本人と話すとき、語彙がよく伝えられなかったんです。

✚ 奈良教育大学の学生としてどのような一日を過ごしていましたか。

日本人の大学生と大体同じような日々を送りました。例えば、勉強したり、いろいろな活動に参加したりしました。はじめてアルバイトも経験しました。

私は日本に来る前、一人暮らしに憧れていたんで、寮生活を楽しみにしていました。でも寮の部屋は壁が薄くて、隣の人のいびきまで聞こえてきて、残念でした。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

特に驚いたことはあまり無いと思います。ただこれはすごいと思ったのは、タクシーのドアが自動的に開くことです。

✚ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

友達と一緒に鳥取砂丘に遊びに行ったことです。コンロと神戸牛を持って行って BBQ パーティーもしました。そして、初めてあのようにきれいな海を見て感動しました。

✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

留学生活は、私にとって本当に貴重な体験になったと思います。国に帰って後輩たちにも留学の利点を伝えたいです。

✚ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

皆さんもしチャンスがあったら是非一度留学してみてください。さまざまな国から来た留学生と交流ができて、本当に想像以上の収穫があります。



ハロウィンパーティで



キラリ 奈教生

平成 25 年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」コンペにおいて、本学のグループによる提案が最優秀賞と優秀賞を受賞しました。この事業は、県政の課題の解決に向けて県内の学生から政策提案を募集し、コンペにより選ばれた提案を学生と共に事業化しようと、奈良県が平成 24 年度から実施しているものです。今回受賞した提案は、平成 26 年度の事業化に向けて、学生や県職員らが参加するプロジェクトチームによって検討が進められます。

【奈良県関連ページ】 <http://www.pref.nara.jp/28210.htm>

最優秀賞

科学の旅

—シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム—

教育学部 学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4 回生

荻 奈津希 さん (家庭科教育専修) 私立浜松日体高等学校出身
渡邊 遥華 さん (家庭科教育専修) 私立天理高等学校出身
村田 沙耶 さん (理科教育専修) 大阪府立鳳高等学校出身

概要

小中学校の修学旅行生を大学にワンストップさせて奈良を学ぶ「科学の旅」、つまり、教育県・奈良ならできる・奈良しかできない学びのツアーを提案する。大学の高度な専門性と学生という人材を最大限に利用して、修学旅行で来県する児童生徒にワクワクする学びの刺激を与え、「また奈良に行きたい!」と思わせる奈良を科学する旅を提供する。

本提案では、従来にない方法と角度からの奈良の魅力を発信することによって、修学旅行生と奈良ファンの増加を目指す。

コメント

私たちは、修学旅行や校外学習に学習の視点が欠落しているのではないだろうかという問題意識を抱いていました。本提案は、奈良県への修学旅行や校外学習の概念を変え、児童生徒に学ぶことの面白さを感じさせるきっかけにしたいと思い、家庭科教育専修と理科教育専修のメンバーが話し合いを重ねてきました。最優秀賞をいただきとてもうれしいです。

奈良についての「なぜ?」を、奈良を教材にした学びから突き詰めることで、奈良のより深い良さを児童生徒に知ってもらいたいと思っています。奈良県にとっても奈良教育大学にとっても、とても魅力ある取組だと思うので、今後は実施に向けて頑張ります。



コンペ終了後にマスコミからインタビューを受ける

優秀賞

大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント

教育学部 学校教育教員養成課程
身体・表現コース 3 回生

赤木 誠五 さん (保健体育専修) 奈良県立平城高等学校出身
坂元 尚人 さん (保健体育専修) 三重県立上野高等学校出身
本部 綾貴 さん (保健体育専修) 私立春日丘高等学校出身

概要

現在、奈良県が抱える問題の 1 つとして子どもの体力不足が挙げられる。そこで本政策では、幼児が運動遊びの楽しさを体験することで運動習慣を持つようになり、将来的に熱心にスポーツに取り組み、奈良県の子どもの体力向上につなげるためのきっかけづくりを行う。

奈良県に在住している幼児 (4 ~ 6 歳程度) 及びその保護者を対象にし、奈良県立橿原公苑などの体育施設で、さまざまな種目が体験できるスポーツイベントを実施する。イベントの運営は幼児分野、体育分野、保健分野を専攻している県内大学生が中心となっていく。実施種目は幼児ができる簡単なスポーツ (ボール運動、マット運動、陸上運動など) とする。

コメント

奈良県の未来事業コンペで「大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント」というものを提案し、この度優秀賞をいただきました。これは、スポーツ社会学研究室の高橋豪仁教授をはじめ、研究室の先輩方のご協力があった結果だと思っています。今後は県庁の職員の方と連携し、イベント実現に向けて準備を進めていければと考えています。このイベントをきっかけに多くの幼児がスポーツに興味を持ち、将来的に武井壮さんのようなスーパースリートが奈良県から生まれることを期待しています。



審査員からの質問に答える



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属11団体、体育会所属28団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、劇団キラキラ座です。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- 書芸部
- ウインドアンサンブル
- 地歌争曲部
- 軽音楽部
- 現代視聴覚文化研究会
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コーラルグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)
- すぎのこ

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部
- 体操競技部

【学生団体・クラブ紹介】 http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/

pick up

劇団キラキラ座 部員数17名

劇団キラキラ座は、1994年に創部しました。現在の部員は1回生が4人、2回生が4人、3回生が1人、4回生が7人、大学院1回生が1人です。学外では、カフェさんかくでの朗読劇、大和郡山市立南井町児童館での人形劇、奈良演劇祭での公演などの活動をしています。今後は、輝薨祭で公演を行う予定です。

個性を生かしてキラキラしよう!



教育学部 学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース 4回生
奈良県立平城高等学校出身
劇団キラキラ座 会計
おおくら くみ
大倉 久実さん

私たちの劇団の特徴は、皆で意見を出しあい、和気あいあいと舞台を作り上げることです。役者や演出家だけではなく、照明や音響、美術の担当も芝居の練習を見て意見を伝える機会が多いのです。本番に向かう一体感を感じながら、活動しています。

また、年度の初めに、部員が興味のあるジャンルや媒体を話し合い、1年の活動内容を決めていきます。そのため、舞台だけでなく映画撮影やドラマCD、内容もコメディやシリアスなど、さまざまなものに挑戦することができます。

ここ2、3年は、主に輝薨祭で公演する舞台を目標に活動しています。小さな

お子様からご年配の方まで、幅広い方が楽しめるコメディを上演してきました。しかし今年は新たなものに臨みます。少し大人向けの、メッセージを込めた劇を送りする予定です。今まで見てくださった方々が楽しめるものになるかもしれませんが、この劇を観ることで、何か大切なことに気づいてもらえたらと思っています。そのために、部員一同、練習に励んでいます。

また、長い歴史のあるこの劇団は、ありがたいことに、学内や児童館からの依頼を多く受けます。児童館で人形劇やクイズ大会を行い、子供たちと楽しんだり、小学校で起こりうるトラブルをドラマにし、大学の講義や論文に活用していただいたりしています。

劇団キラキラ座は、昨年、舞台工房KATEという劇団と合併して以来、大学



輝薨祭公演
リハーサルの様子



輝薨祭公演の様子



練習の様子

で唯一の劇団となりました。芝居への関心を持つ人だけではなく、小説を書きたい、美術の腕を生かしたいという思いを持った学生が集まっています。また、OBの中には役者を経験し、あがり症が和らいだという人もいます。人前で話をする、教師力を上げたいという方も、大歓迎です。

活躍する奈教生

文化系

受賞

- ◆ 第18回全日本高校・大学生書道展
団体賞 大学の部優秀校3位

畠岡 志帆さん(教育学部3回生)

- ◆ 第18回全日本高校・大学生書道展
書道展大賞(調和体)

柳澤 美希さん(大学院2回生)

- ◆ 第18回全日本高校・大学生書道展
書道展大賞(かな)

西部 裕香子さん(大学院2回生)

- ◆ 第37回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会
A1カテゴリー 入選

坂井 琴葉さん(教育学部1回生)

- ◆ 第37回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会
連弾中級 ベスト12賞

体育系



女子ハンドボール部

- ◆ 第51回近畿地区国立大学体育大会
第3位

硬式野球部

- ◆ 近畿学生野球連盟春季リーグ戦(Ⅱ部リーグ)
第2位

細田 一智さん(教育学部4回生)

- ◆ 近畿学生野球連盟春季リーグ戦(Ⅱ部リーグ)
ベストナイン(捕手)

村木 拓朗さん(教育学部3回生)

- ◆ 近畿学生野球連盟春季リーグ戦(Ⅱ部リーグ)
ベストナイン(外野手)

弓道部(男子)

- ◆ 第51回近畿地区国立大学体育大会
準優勝

準硬式野球部

- ◆ 第51回近畿地区国立大学体育大会
第3位

男女ソフトテニス部(女子)

- ◆ 第51回近畿地区国立大学体育大会
第3位

男子バレーボール部

- ◆ 第51回近畿地区国立大学体育大会
第3位



5月10日・11日



島民と触れ合う留学生

留学生が学習旅行で答志島を訪問

本学で学ぶ交換留学生、日本語・日本文化研修留学生及び教員研修留学生27名が、学習旅行で答志島を訪問しました。

島民と触れ合いながらクイズラリーに取

り組んだり、海女の仕事や海の生き物を見学したりしながら、日本の離島の生活様式を学びました。

【国際交流・留学】

<http://www.nara-edu.ac.jp/international/>

6月24日



協定書に署名後、握手する長友学長(右)と中尾富士通部長

Tablet PCを活用した教員養成カリキュラム開発に関して富士通(株)と協定締結

相互に連携協力して Tablet PC 等を活用した教員養成カリキュラム開発プロジェクトに関する共同研究を行うことにより、教育及び研究成果の社会への還元を推進するとともに、その活動によって大学における教員養成の充実と高度化及び地域社会への貢献、普及に資することを目的に、富士通(株)と協定を締結しました。

今後、附属小学校及び中学校において富士通(株)が提供する Tablet PC やソフトウェア等を活用し、活用事例や改善点の収集を行うほか、高度な ICT (情報通信技術) スキルを持った教員の養成や教員研修による教員の ICT 活用指導力の向上に寄与することが期待されます。

【次世代教員養成センター】

<http://ride0.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/>

7月1日



看板を前に記念撮影を行う、左から長尾大教大学長、長友奈教大学長、位藤京教大学長

「次世代教員養成センター」開所式を挙

京都教育大学・大阪教育大学と連携して、ICT 活用を含む実践的教育力・指導力及び課題探究力の向上を図るとともに、学び続ける教員の質保証に関わる事業及び研究開発を行うことにより、21世紀社会を牽引する人材である次世代の教育を担う教員の養

成に寄与することを目的に「次世代教員養成センター」を設置しました。

開所式には、位藤紀美子京都教育大学長と長尾彰夫大阪教育大学長が出席し、同センターの発足を祝福しました。

【次世代教員養成センター】

<http://ride0.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/>

7月3日



協定書に署名後、握手する長友学長(左)と生田教育長

連携協力に関して京都市教育委員会と協定締結

相互に連携協力し、教員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、双方の教育・研究の充実・発展に資することを目的に、京都市教育委員会と協定を締

結しました。

長友学長は、「この協定締結を機に、今まで以上に連携を深め、お互いに協力していきたい」と意気込みを語りました。

7月3日



卒業生からのビデオレターを見る参加者

教員採用試験出陣式を実施

教員採用試験に挑む学生を激励すると共に、試験当日に向けての最終的な注意事項を共有するために、教員採用試験出陣式を実施しました。

長友学長からの激励や各教員からのアド

バイス、今年の4月から教員として小学校に勤務している卒業生からのビデオレター上映などが行われ、参加した学生は熱心にメモを取っていました。

8月4日



会場を盛り上げる「なっきょん」

オープンキャンパス2013を開催

今年のオープンキャンパスには、1,300名近い高校生や保護者が参加、特に午前の部では、メイン会場である講堂が満席となり、また講義室に設けた同時中継のサテライト会場も満席となる盛況ぶりでした。

各会場では、揃いのTシャツを着た学生スタッフが、受付や司会進行役、キャンパスツアーでの案内役などを務め、学生と教職員が一体となった活気あるオープンキャンパスとなりました。



5月24日・25日

〔附属中学校〕



西浦峠登山コース



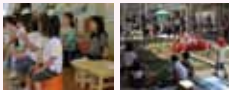
1年 曾爾高原野外活動

1年生が、一泊二日で曾爾高原へ野外活動に出かけました。入所式の後、西浦峠の登山コースにチャレンジ、また五組（特別支援学級）のみんなは、元気に亀山登山をしました。夜になり、月もきれいに輝き、夜のとばりに包まれる中、校長先生演じる火の神が厳かに入場し、ファイヤーの点火を合図にキャンプファイヤーが始まりました。各クラスのスタンツでは、ダンスあり、パロディー劇あり、光のイリュージョンあり、

ユニークな行進あり、「故郷」の歌ありという盛りだくさんの内容で、生徒はもちろん、担任の先生方も大奮闘でした。また、伝統芸能である「獅子舞」も披露していただきました。翌日は、野外炊飯で美味しいカレーと大鍋でのご飯炊きなど、本格的な自炊を体験しました。曾爾高原の大自然のもと、自然からの学び、友人からの学び、触れ合った人からの学びなどさまざまな学びを経験し、一段と成長したのではないのでしょうか。

6月8日

〔附属幼稚園〕



公開保育研究会に300人を超える先生方が来園

平成 23 年度より取り組んでいる研究「幼児期に必要な『からだ力』について考える」をテーマに、公開保育研究会を実施しました。県外からも多くの幼児教育関係者が来られ、300 人を超える参加がありました。子どもたちは、多くの参観者がいるにもかかわらず、いつも通りにのびのびとさまざまな場所で、思う存分体を動かして遊びました。新学期

間もない時期ですが、子どもたち一人ひとりが自分の居場所を見付け、先生や友達との触れ合いを楽しみながら生き生きと園生活を送っている姿や、午後からの研究報告を通して、本園の研究成果を感じ取っていただけたと思っています。大学からは 50 名近くの学生が参観し、午後はテレビ会議システムを使って別室で研究報告会、講演会に参加しました

7月11日・16日

〔附属小学校〕



みんなでワイワイ、楽しかった『19(いく)まつり』—児童会活動・専門部でのとりくみ—

全校にさまざまな活動を広げる専門部の一つ「19クラス交流部」では、19クラス(特別支援学級)と全校が仲良くなるための会『19(いく)まつり』を企画して各クラスに呼びかけ、7月11、16日の休み時間に会を開きました。スーパーボールすく

い、ヨーヨーつり&まとあて、さかなつり、バケツリレーといったみんなが楽しめる遊びを部員の6年生が考えて準備をし、運営しました。両日とも、1～6年生まで100人を超える参加があり、どの子も楽しく遊び、交流しました。

奈良に息づく仲間たち



自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



ネジバナ —学内絶滅危惧種—

ネジバナはラン科の20センチ程度の多年草で、日当たりの良い草地に生育する。鮮やかなピンクの小さな花が細長い茎の周りを螺旋状に渦巻いて咲く。このねじれて咲く花が「ネジバナ」の名前の由来で、属名もギリシャ語の「螺旋」と「花」に由来すると言う。ねじれには左巻きと右巻きがあるらしい。

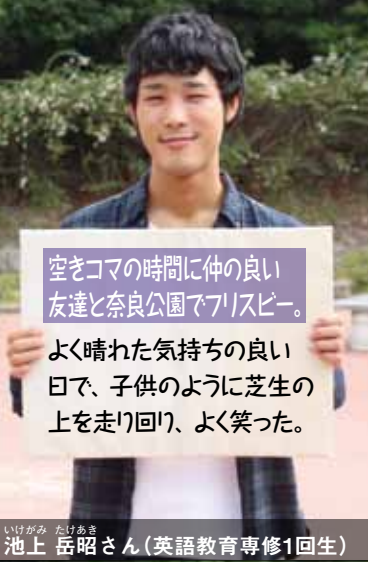
明るい草地に咲く花ではあるが、奈良公園飛火野では見られない。市内の道路脇や中央分離帯で時々見ることができる。学内では1～2年前には普通に咲いていた花である。しかし、今年はその姿を見ない。弓道練習場の草地で咲いていたが、草刈りされたらしい。飛火野で咲かないのはシカの採食によるものと考えられるが、学内で見られなくなっているのは草刈りによるところが大きいのだろう。徹底した草刈りやシカの増加は多くの花を絶滅させる可能性が高い。そう言えばヘラオオバコも減った。「花咲かぬ春」が予感されるこの頃である。



▲ネジバナ

〔自然環境教育センター〕 <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

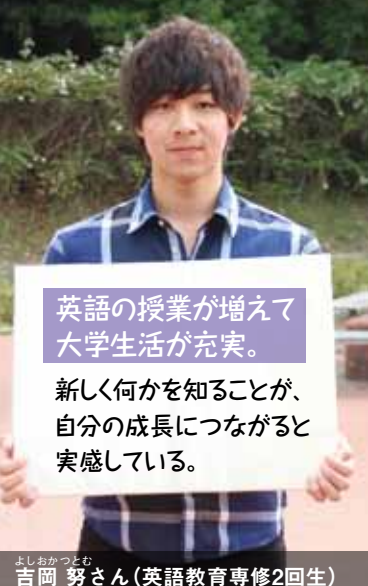




空きコマの時間に仲の良い
友達と奈良公園でアリスビー。

よく晴れた気持ちの良い
日で、子供のように芝生の上を走り回り、よく笑った。

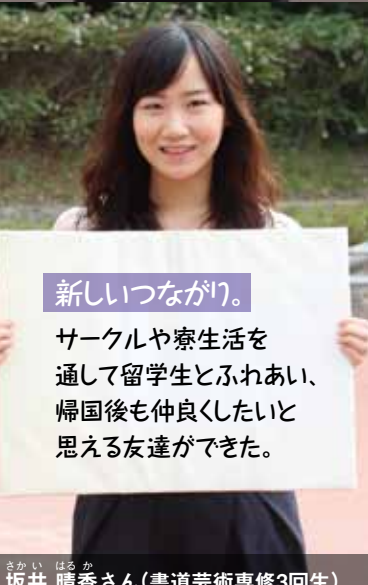
いけがみ たけあき
池上 岳昭さん(英語教育専修1回生)



英語の授業が増えて
大学生活が充実。

新しく何かを知ることが、
自分の成長につながると
実感している。

よしおか つとむ
吉岡 努さん(英語教育専修2回生)



新しいつながり。

サークルや寮生活を通して留学生とふれあい、
帰国後も仲良くしたいと
思える友達ができた。

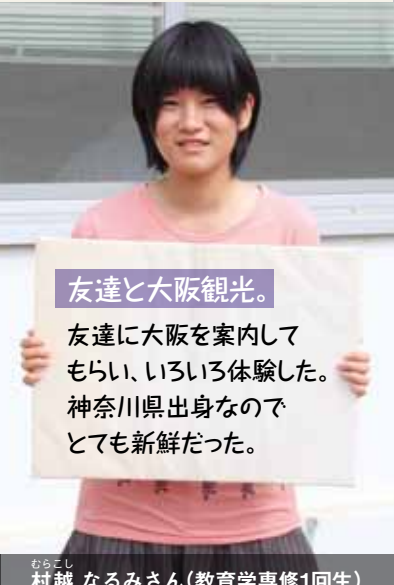
さかい はるか
坂井 晴香さん(書道芸術専修3回生)



書道の作品制作。

仲間と一緒に、
朝まで大学に泊まり込んで制作した。

わたなべ りこ
渡辺 莉子さん(書道芸術専修3回生)



友達と大阪観光。

友達に大阪を案内してもらい、いろいろ体験した。
神奈川県出身なのでとても新鮮だった。

むらかし なるみさん(教育学専修1回生)



臨海実習で白浜へ。

海の生物をたくさん採取し、普段見ることができないような生物を観察できた。

むらかみ ひとみ
村上 仁美さん(理科教育専修2回生)

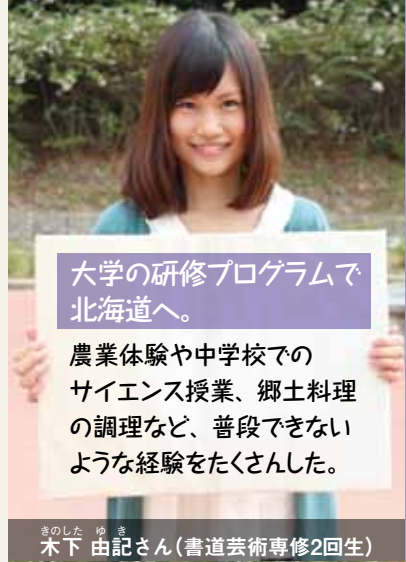
奈良 教 生 に

聞きました!

vol.9

「大学生活で最近楽しかったことは」

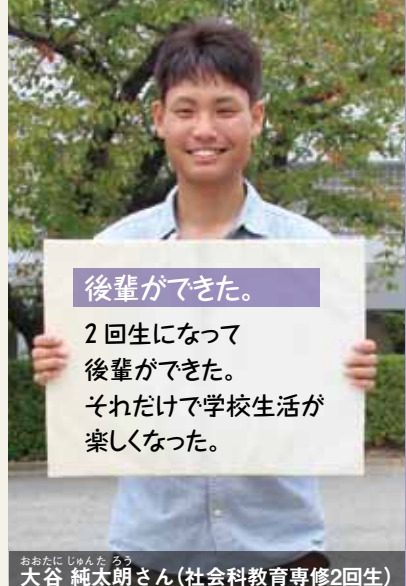
後期の授業が始まり、今年度も後半戦に入りました。前期から夏休みにかけて、さまざまな出来事があったことでしょう。今回は、これまでを振り返り、楽しかったことについて聞きました。



大学の研修プログラムで北海道へ。

農業体験や中学校でのサイエンス授業、郷土料理の調理など、普段できないような経験をたくさんした。

きのした ゆき
木下 由記さん(書道芸術専修2回生)



後輩ができた。

2回生になって後輩ができた。それだけで学校生活が楽しくなった。

おおたに じゅんたろう
大谷 純太郎さん(社会科教育専修2回生)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。
QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答いただくことができます。
皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なつきょん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は総務企画課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



奈良教育大学 広報誌「ならやま」

第44号 平成25年10月31日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>